

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	三重県津市戸木町		
自己評価作成日	令和 4年 7月 19日	評価結果市町提出日	令和4年9月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470600368-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4年 8月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、笑顔と優しい気持ちで支援させていただくことを目標にしています。職員は認知症高齢者の理解を深め、資質向上に取り組んでいます。利用者様は自然に囲まれた環境の中でゆっくりと気持ちよく過ごしていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高台に立地し、四季折々に変化する木立に囲まれた4階建ての3ユニットである。眼下には散歩コースとなる広大な公園や畑があり恵まれた環境である。隣接には母体会社運営のデイサービス、ショートステイ、グループホームなどがあり、常に連携し、地域の方々と共に地域の高齢者の生活をサポートしている。コロナ禍でも自治会の協力を得て運営推進会議が行われ、地域との繋がりを大切にしている。また、管理者・職員は屋内でできる体操・レクリエーション・手芸品作りの回数を増やし、毎月、フロアの壁を季節の花々で飾る工夫をし、利用者の楽しみごとや気分転換になるような支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和顔愛語の理念を職員で共有し、支援につなげています。	「和顔愛語」を事業所理念とし、3ユニット毎、フロアに「笑がおと笑がおでつながる心」の標語を掲示している。管理者・職員は常に理念を振り返り、利用者に寄り添うケアを目指し実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで今交流が出来ませんが、災害時には協力体制をお願いしています。	地域住民と一体となる盛大な夏祭りもコロナ禍で数年中止となっている。管理者は地域とのつながりを大切にし、運営推進会議を通じて日常的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設が地域の方のお役に立てるように発信していきたいと思えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの運営や介護保険制度、災害時の協力について意見交換をしています。	法人隣接のグループホーム事業所と合同で年6回、開催している。自治会長、副会長、各組長の参加で事業所の利用状況・行事報告など意見交換を行っている。	参加者からの助言や意見は貴重で、利用者の暮らしの質を高めるために、家族および行政担当者へ出席案内の働きかけを工夫することにより一層のサービス向上を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課、介護保険課、援護課様にいろいろな課題の相談に応じてもらっています。	管理者は介護相談・更新手続き・生保利用者の入居相談などで良く出向き、各担当者と連絡を取り協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、取り組んでいます。	身体拘束廃止に向けての指針を作成し、それに基づいて職員研修をしている。身体拘束の意味の理解を深め、全職員で拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人について実際に活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にご家族様に重要事項説明書により説明をしています。利用されてからも疑問点について説明をさせていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接お話を聞いたり電話連絡時にお話を伺うなど気軽に話し合いが出来るようにしています。得た情報をもとに職員間で相談をしサービスの向上に努めています。	コロナ禍で家族とはリモート面会をしている他「ひまわり通信」を通して生活状況を知ることが出来、大変喜ばれている。数年ごとに家族アンケートを実施し、意見や要望などを聞き、出来ることは直ぐに取り組み、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見交換をし調整しています。	管理者は年2回の個別面談をするほか、毎月のフロア会議の場で意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。職員からの提案で、コロナ対策用のごみ箱、抗原検査用キット、Mマスクなどの購入をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者からは定期的に職員の個人面談をするように指示が出ていますので取り組んでいます。個人の考えがよく伝わってきます。代表者は面談表に目を通しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者からは資格を取ることに支援(経費を全額持ってくれています)をしてもらっている。また、他の職場と交流をするように指示が出ています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで交流がなかなか難しいですが、定期的に電話で情報交換をするように指示が出ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とコミュニケーションを図るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とコミュニケーションをとり要望などを聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族様の状況を把握し適切に対応を取るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとり信頼関係が保てるよう努めています。支援が一方向的にならないよう気を付けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関係は本人を支援するうえで大切であります。良い関係が保たれるよう取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は大切であるので、交流ができるよう取り組んでいきたい。	コロナ禍で馴染みの場へは行けないが、理美容師や平日のハウスクリーニングの訪問が馴染みの人となってきている。又、職員も地元での共通の話題を探し関係継続に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様との間に入り、その場が馴染むよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談事があれば支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から意向を把握し、職員間で相談しながら取り組んでいます。	排泄・食事・入浴など、日々の支援時に思いや要望を聞いている。聞いたことは申し送りノートに記入し、全職員で共有し、アセスメント・ケアプランに反映できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を把握し、職員間で相談しながら取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態について毎日確認をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状について確認をしています。家族様とは必要に応じて話し合いをしています。	介護計画に関する家族との話し合いは、コロナ禍で電話対応が多いが、それを基に各階のフロアー会議で職員の意向も取り入れながらモニタリングをしている。介護支援専門員が介護の現場に携わっているので、各利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々の記録に残し、支援に取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用が出来るように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、かかりつけ医とは入所されても引き続き適切な医療が受けられるよう関係を持ってもらおうようにしています。	家族の協力を得て利用者の半数がかかりつけ医で、他は協力医で月2回の訪問診療を受けている。全員24時間対応で主治医の指示の下、柔軟な医療体制がとられている。訪問歯科も必要に応じて利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師と連携し対応している。看護師の採用をしたいと考えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーとその都度連絡を取っています。家族様とも情報交換しながら入退院の支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときは主治医に相談して指示をいただくことにしています。	入居時に看取りをしないことを家族に説明している。事業所での支援対応が困難になった時の準備として、施設入所の情報提供や相談に乗っている。常に利用者にとって一番良い方法を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者さんの急変、事故発生時には状況を確認し主治医に連絡、又は救急要請をするなど対応にあたっている。AEDの使い方、急変時の対応を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法や救援依頼、公的機関、家族様への連絡など職員で確認を取っています。地域の方にも協力の依頼を行っています。	風・水害の少ない地域ではあるが、消防署立会いで火災を想定し、初期消火訓練および2・3・4階からの避難方法を再確認した。防災用具や非常食の見直しは常に確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や気持ちを把握し適切に言葉かけを行うよう取り組んでいます。	管理者・職員は居室に入る時はノックをし、声をかけて入室している。又、利用者の目の高さに合わせて話し、言葉かけにも配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気持ちを表現してもらえるような声掛けをするように職員間で取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で何事も決めず、利用者様の生活リズムを崩すことのないよう気を付けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などの物品については家族様に持ってきていただくように連絡を取ります。必要時には職員が購入しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを伝えたり、食事前には嚥下体操、食事中は音楽を流したりしています。配膳、下膳ができる方にはしていただいています。	献立に沿って食材が業者から届き、職員が3食とも調理している。月1回のオリジナルメニューはユニット毎、利用者に希望を聞いて、食べる楽しみを味わってもらう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理をするときに個々に応じた食べやすい形態、塩分を控えめにして出ささせていただくようにしています。呑み込みの悪い方にはトロミをつけて出ささせていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中を清潔にすることは肺炎予防になるので清潔にしてもらうよう取り組んでいます。入れ歯調整など訪問歯科に来ていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室にトイレがあるので、声かけ誘導しトイレでできるように取り組んでいる。失禁がある方はリハパン、パットなど使用していただき自立につながるよう取り組んでいる。	各居室にトイレが設置されていて、利用者が使用するたびに職員はチェック表に記入している。布パンツ6名、他はリハビリパンツとパットの対応である。夜間のみ転倒防止から7名がオムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食事や水分補給を確りともらっています。便秘の方は主治医、かかりつけ医に相談し便秘薬をもらっています。毎日排便チェックを行います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週3回行っています。入浴が嫌いな方もいるので、曜日や時間の希望に合わせてながら入浴をしてもらうよう対応しています。	週3回入浴を基本としている。感染予防や一番風呂希望者などを考慮し、一人ずつ湯を入れ替え、個々に浴った支援をしている。入浴拒否の場合は、子供さんの名前を言うなど工夫しながら誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明や室温調整に配慮しています。寝られないときはフロアに出てきてもらい話し相手となり見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	他の方と薬の飲み間違いのないように、飲む前に名前と日にちを声を出して確認しております。手に渡してもこぼされる方がいるため完全に飲み終えるまで確認をしています。薬の内容について薬情で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション・誕生会を行い、生活に楽しみが持てるよう取り組んでいます。個人的には新聞をみたり、パズル、ゲームをしてもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、外食など外出支援している。家族様と出掛けたりしていただいている。	コロナ禍で外出は控えているが、広い敷地内に散歩コースがあり四季折々の花を見ながらストレス発散や気分転換を図っている。また、家族の協力で受診、車窓ドライブなどの外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持してもらってないですが、必要に応じて支援させていただきます。自分の年金の受給日はいつですかと聞かれたりします。お金の話はさせていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や本人の希望があれば対応させていただきます。リモート面会をさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は快適に過ごせるように整理整頓、掃除、音や光、湿度、温度に時間を決めて気をつけています。	2・3・4階と3ユニットに分かれている。事務室からは全居室が見渡せ、対面キッチンからは調理をしながら笑顔で利用者の見守りが出来る工夫となっている。各ユニットの壁には職員との共同作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の関係性を重視し座る場所は決めてあります。また状況に応じて変わっていただくこともあります。居心地の良いよう取り組んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使用されていたものを持ち込んでもらっています。家族様も協力をしていただいています。	コロナ禍で居室を実際には確認できていないが、事業所としてベット・トイレ・洗面台・クローゼットが設置されている。他は、自宅同様の生活用品を家族の協力を得て持ち込み、楽しく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、ホールは段差もなく安全な環境になっています。移動時、下肢筋力低下がある方はシルバーカー、車椅子、杖を使用してもらい安全を取っています。		